

対応状況報告書

大 学 名： 琉球大学

評価実施年度： 令和5年度

報 告 年 度： 令和6年度

対象となる基準	基準6－8
改善を要する点	○理工学研究科（博士後期課程）については、修了率が低い。
対応状況	・理工学研究科（博士後期課程）の「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率の5年平均（令和元年度～令和5年度）は75.7%と改善されている。 上記の改善を要する点の指摘に対して、課題の分析を行ったところ、理工学研究科では、社会人学生による仕事と学業の両立が困難なことや経済的理由等による休学により、標準修業年限内の修了率が相当程度低くなっていることから、指導教員や事務担当者により、仕事と学業の両立が困難な社会人学生や経済的理由等により休学を考えている学生に対し、長期履修制度や経済的支援制度等を適切に案内し、標準修業年限内に修了できるよう努めた。これらの取り組みにより、直近5年間の「標準修業年限×1.5」年卒業(修了)率の平均が71.9%（平成30年度～令和4年度）から75.7%（令和元年度～令和5年度）に向上した。 本学は修了率が低いとする目安の一つとして、「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第3期中期目標期間における教育研究の状況に係る評価」の基準（「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率が博士後期課程及び一貫制博士課程において70%未満である場合、相当程度低いと判断する）を適用しており、75.7%（令和元年度～令和5年度）はこの基準と比して相当程度高くなっていることから、本学において改善されていると判断した。 【根拠資料・データ】 ・6-8-1_(00)標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率(過去5年分)

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「Ⅱ 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。